

1 自立をめざした具体的目標

自閉症の療育のカギは課題学習である。

自閉症の学習が困難であればある程、使いやすく内容ある教材と優れた教え方の開発が必要である。

トモニ療育センターでは、母親が家庭で、数字100並べ、タイル100並べ、タイル算、時計の指導、文字指導などの個別課題学習を中心において、できるだけの自立をめざして、具体的目標に向かって取り組んでいる。その学習過程で、情感的、精神的豊かさをも育んでいくことができる。

トモニでは、FAXやメールによる家庭生活記録から療育の状況を読みとり、問題行動やパニックなどにもきめ細かな指導をしている。また、月3回の親の学習会（1回はお好み焼きを囲んでの懇親会）を開いて、“知識ある愛”の補給に努めている。（現在は 学習会は開けていない。個人セッションやメールなどで個々に対応している。）

具体的目標（できるだけの自立をめざして）

- ① 基礎学習と家庭科技術と職業技術の3種を同時進行で獲得させていく。
- ② コミュニケーション力をつける
- ③ 身体作り、粗大運動、微細運動ができるようにする。
- ④ 基本的生活習慣の確立をする。
- ⑤ 問題行動やパニックを克服する。
- ⑥ 社会的に受け入れられる行動や奉仕作業ができるようにする。
- ⑦ 余暇を楽しみ、生活を楽しむことができるように

親が「読み書き計算の基礎学習」と同時進行で「家庭科技術（料理）」を課題とし、同時に「職業技術（ビーズのれん作り、箱づくり、折り紙）」などに取り組めば、幼児から青年まで長期にわたって一貫した指導が継続できる。この指導法は、年齢にとらわれずどんな自閉症児・者にも適応できる。また、幼児期から学童期へ移行、学校生活から社会生活への移行を容易にする。

2 子どもの把握のための検査と課題学習

外来療育相談は、一日を掛けて、以上のような力をできるだけ明確に把握して、家庭での適切な具体的取り組みの参考になるよう、河島教材などを活用して、個別の課題学習に取り組み、地域社会の中で、豊かにより自由に自立して生き抜いていく力をつけようと願って実施している。

(1) 問診票

当日は子どもの前で問診をしないためにも、詳細な問診票『親による子どもの紹介』をあらかじめ記載して郵送してもらい、子どもと家族の状況や状態を知った上で、検査する。

(2) 検査項目

- ① 型はめパズル（○△□、大中小、具体物）
- ② モンテッソーリ円柱さし
- ③ ピクチュア・パズル
- ④ 切片パズル
- ⑤ 分類（具体物・プラスチック）
- ⑥ カテゴリーピース
- ⑦ 数字1～10 並べ
- ⑧ 文字（ひらがな・漢字）
- ⑨ 数の概念
- ⑩ 実物と絵カード
- ⑪ ことばの本（指さし）
- ⑫ 手の機能（はさみ、折り紙、書くこと、）

(2) 把握すべき事柄

- ① 形や大きさを目で見て判断する力はどのくらいあるか。（
- ② 部分から全体を作り上げていく力はどうか。（ピクチュア・パズル、切片パズル）
- ③ 分類する力はどのくらいあるか。（色、具体物、形）
- ④ 上位概念で分類する力があるか？（食べ物・乗物・動物）
- ⑤ 論理的な思考力はどのくらいあるか。（分類・カテゴリーピース）「分析と総合」の考え方がどのくらいできるか。
- ⑥ 数の概念（数えたり、指示した個数を渡したり皿に入れる）を獲得しているか。
- ⑦ 絵カードと実物、絵カードと言葉がどの位結びついているか。
- ⑧ 数字や文字の区別はどうか？（ひらがな、数字、漢字）
- ⑨ 手指の機能はどうか。

⑩ はさみ 鉛筆の持ち方 折り紙、びんの蓋の開閉、各種ピースの扱いでの手指の使い方

⑪ 言葉の指示をどの位理解できているか。

⑫ 音声の言葉だけでどのくらい理解し、行動できるのか。

⑬ 絵カードなどの指示があると理解が深まるのか。

⑭ やりとりに応じることができるか？ 挨拶はできるか。

⑮ やり遂げる力はどうか。苦手なことでもやり遂げる力があるのか。たくさんの量でも最後までやり遂げる力はあるか。

認知機能の状態やコミュニケーション力などを把握する。すぐに河島教材を使って教育を始めている。

(3) 河島教材を活用して教育を始める

① 数字 100 並べ (マッチング)

② タイル 30 並べ→タイル 100 並べ

③ 漢字マッチング (動詞・名詞)

④ ひらがなマッチング

⑤ 書くこと (絵描き歌・コックさん、数字を書く。名前を書く)

⑥ 1対1対応 (1対1対応の表を使って→絵カードと実物を対応)

⑦ 足し算九九タイル表 (10 までの足し算・11～18 までの足し算) →足し算九九タイル表を見ながら唱えて憶える。→足し算九九を唱えながら、表にタイルをマッチングする→プリントに憶えた答を書く。

⑧ 引き算九九タイル表 (10 までの引き算) →引き算九九タイル表を見ながら唱えて憶える→対応するプリントに憶えた答を書く。

⑨ 折り紙 (やっこさん 3枚)

⑩ 料理のレシピを読む (カレー)

⑪ 日誌 (今日したことを書く)

3 自閉症の子どもの教育の難しさ

自閉症児は、学習態勢が整わない上に、認知の障害をもっているため、指導が難しい。普通児のように学習していけない。しかし、乳幼児期の脳神経は目覚ましく発達している。

(1) 自閉症児の状態像

多動 椅子に座ろうとしない じっと座れない 逃げる 教室から出ていく 指示が通らない 指示がわからない 指示に従わない 課題がわからない 新しい課題・難しそうな課題に激しく抵抗する ことばが通じない 自発性がない 自分の仕方（パターン）に固執する いつもと仕方が違うと抵抗する 話を聞かない 大泣きする 声を出す 唾をかける 鼻汁を出す 噛みつく パニックを起こす 模倣が出来ない 模倣が下手 模倣をしない

(2) 学習の困難性

しゃべれない、言われている意味がわからない、応答できない、指示がわからない、模倣できない、学ぼうとしない

① 悟りにくい。こつ（要領）をつかみにくい。物事の関係性がわかりにくい。

数の概念が入らない。色や形の名称が入らない。表音文字に気づけない、手指がうまく使えない。

助詞、接続詞、疑問詞がわからない。問われていることがわからない。

問題用紙の中の約束事が何のことかわからないので、答えられない。全くできない子供と判断される。（かっこ、→の記号の意味線の意味、点と点を線で結ぶ意味）

② すらすら読めても文章の内容がつかめない。

③ 興味の少ないことは覚えない。覚えてもすぐ忘れる。応用がきかない。

4 それでも自閉症児は教育できる 早期教育を！

嫌がっても泣いても座らせる。叩かないし、叱らない。怒鳴らない。しかし、譲らないで教える。自閉症児の機嫌をとって教えるてはならない。リードする。課題学習時にごほうびは要らない。達成感と、後の解放感が幸せ感を与える。やりぬいた後では、むしろ機嫌がよく、ある種の充実感を味わっている。すごく嫌がっていても、自閉症児たちは学びたがっている。本気で相手をしてもらいたがっている。

課題に取り組む過程で、指示に従う力、相手に合わせる力、努力する心、やり遂げる力をつけ、わかる喜び、充実感、楽しみ、自信を得させることができる。また忍耐力、集中力、判断力もつき、積極性、自主性も育っていく。

身体が小さく力も弱い幼児期に、手を添えて教えられる幼児期に、手を添えて育児をしている幼児期に、明確な教材を用いて 課題学習を始めたい。

どんな自閉症児も、手を添えて、分類やマッチングをさせてあげているうちに、次第に慣れて課題を見るようになり、課題の意味も理解できるようになっていく。そして、課題学習に喜びを見出し、学びは加速していく。

手を添えて身辺自立を助けたように、手を添えて学ばせてあげ、手を添えて料理をさせてあげ、手を添えて掃除をさせてあげ、手を添えて遊ばせてあげる。そのうちに理解して、判断して自分で学び、働き、遊べるようになっていく。

5 自閉症児は教育の可能性をもっている—教育できる力を備えている

- ① 身体的な障害はない。目も耳も口も手も足も役立つように導いていける。
- ② 興味のあることや物は、小さいものでもよく観察している。
- ③ 興味のあるものに 凝る、記憶する、集中する、観察する力がある。
- ④ 一度悟ってしまうとスムーズに前進でき、積極的に自主的に取り組める。できるようになると素直に粘り強く黙々と嬉しそうに努力できる。
- ⑤ タイル算などの系統的な構造化した一貫した指導で 解るようになり大学までいける学力をつけた子もいる。
- ⑥ 言葉がなくても熟練した職人になれる。熟練できる。しゃべれなくても手の機能に優れ、几帳面である。運動面でのぎこちなさはあっても麻痺はない。多くの不器用さは克服できる。

6 見通しをもって育てる

－小学入学までにできるだけ育児と教育をやって、学校教育への移行をスムーズにし、学校教育を受ける機会を少しでも増やしたい。－

早期（2～3歳）から、個別課題学習に取り組むことが、対人関係を改善し、社会性を育て、認知力を育て、情緒を安定させ、問題となる行動の発生を減少させる。

「できることを増やしていく」ために、強力に簡潔に「指示する 指示に従う」「模倣させる 模倣する」「要求する 要求される」「質問する 答える」などやりとりを親が教える過程で、自ずと親子の歯車はかみ合っけ、信頼関係は強まっけいく。適切な教育的働きかけが自閉症児を救う。

- ① 早期に手を添えた教育を開始する。身体の小さい幼いときからはじめる。
- ② 生活年齢と性を考慮した育て方（とくに排泄指導）をする。幼児扱いをしない。
- ③ 喜んで指示に従って共に行動できるようにしておく。
- ④ 家事（とくに料理）を親子で楽しみ、室内でできる趣味となるものを育てておく。
- ⑤ マラソンに取り組む。山歩きをたのしむ。



7 パニックの克服（自由な心で、幸せに生きられるように）

(1) パニックの原因を見つけ、積極的に乗り越えさせる。

子供は諦め、慣れ、こだわりが薄れ、周囲の人に合わせる柔軟な心が育つ。原因となるものがあっても、平気でいられるようになり、楽しむことさえできるようになる。

忍耐力がつく。外界に対して正しい好ましい認知ができるようになる。

(2) パニックの種類を見極めて、適切な対処をする。

① 恐れ、不安、嫌悪……………慣れさせる。楽しさを教える。

② 自分の思い通りに事が運ばない…慣れさせる。けじめを付け、諦めさせる。

（同一性保持、固執） 無視する 機嫌をとらない。

落ち着くまでそっとしておく

③ 学習や手伝いをしたくない……………ゆずらないでやらせる。ほめる。

④ コミュニケーションできない……言語を育てる。指さしを教える。

絵・文字カードの利用。基礎学習をさせる。

「いやです」「けっこうです」「わかりません」「教えてください」

「何と読むのですか」「誰？」「どこ？」「これ」

(3) 留意・工夫

① パニックは、赤ちゃんの大泣きに似ている。いろいろ経験をし、理解力が増し、認知力が育ち、信頼関係が増して内面が育つと消えていく。

② 「わがまま」「ききわけの無さ」等のいわゆるパニック・大泣きは「嫌です」の意思表示であるが、生きる上で必要なしつけや学習は、一貫性をもってさせる。

③ むやみに手をさしのべたり、なだめたり、機嫌をとるとパニックを増大させる。

④ 指示したことは必ずさせる。どうしてもよいことは指示しない。

⑤ かけひきを覚えさせない。「させたり、させなかったり」「買ってあげたり、買ってあげなかったり」していると、手こずるようになる。

⑥ 悪いことは、悪いこととしてはっきりと禁止する。理由はわからなくてもよい。「まあまあ」「しかたがない」と許してしまうと、問題は大きくなる。

8 問題行動の意味を見極めて、対処する

困った状態・問題行動の数々

(二次的・三次的障害を増大させやすい。二次的・三次的障害かも知れない)

- ① 激しいかんしゃく 激しく泣き叫ぶ 泣きやまない 突然の大泣き (原因を察知出来ないことが多い)
しゃべらない 答えない 言ってもわからない 絶えず唸り声をあげている 絶えずわけのわからないことをしゃべっている 声だしが止まらない 奇声をあげる 大声を出す 所かまわず絶えずパンパン拍手する しつこく同じことを話す
- ② 自分のしたいことだけをする ひとり行動が好きである 一緒に何かをするのを嫌がる
激しく拒否する 言うことをきかない 躰けができない
気に入らないとそっくり返って大暴れする 地べたにすわりこむ
- ③ 罰を与えても効果はほとんどない 叩かれても笑っている 叩いてくれと自分から手を出す
叱っても効果がない 「ごめんなさい」と言いながらすぐ同じことを繰り返す
「してはいけない」と言われてもニコニコしたり横を向いて何度言っても繰り返す
- ④ 自動車の怖さがわからない 車に向かって飛び出していく 交通事故を起こす
衝動的にライターで障子に火をつける 走行中の車から飛び降りる 高所に上る
屋根に上がる 屋根から飛び降りる
- ⑤ 呼んでも帰ってこない 母親になつかない 甘えてこない 迷子になる 無断で家を飛び出す
- ⑥ 自分の頭を叩く 自分の手や腕をかむ ささくれをはがす かさぶたをはがす
自分の髪の毛を引っ張る 自分の目を突く ドア・壁に体当たりする
- ⑦ 物を床に落とす 食器などひっくり返す 教材をひっくり返す 物を投げる 机をひっくり返す
机を叩く 川に物を投げ込む 部屋に尿を振りまく 着ているものを破る
何度着せても真裸になる
- ⑧ 飛び跳ねる ロッキングする (身体ゆすり) くるくる回る 歩き回る うろうろする
教室から飛び出す 物をはじく ぐるぐる回す こつこつ叩く つま先歩き 手かざし
光・物を凝視する 鏡をのぞき、奇妙な表情をしている 一日中水遊びをする くるくる何でも巻く
ベルト・紐をふる 棒切れを振る 紙切れを振る
爪を食べる 同じ物を2個持って離さない
絶えず自分の顔、首筋を触る 指をくねくねさせる 何でもひっかいて音を楽しむ
- ⑨ 鼻いじり 性器いじり 着ている服をしゃぶり唾液でどろどろにする 歯をかちかちさせる
絶えず涎を流している 唾液を口に溜めて吐き出す 極端な偏食がある
服が少し濡れても着替えないと気がすまない
- ⑩ 大便を食べる 大便をこねる 大便を塗る 浴槽に排便する トイレ以外で排便する
石けんを食べる 何でも口に入れる なめる 粘土を食べる トイレの水を飲む
耳ふさぎ 臭いかぎ (不安 習性 偏り) 食べた物をはんすうする

- ⑪ 他者を叩く 他者を突き倒す 幼児を狙って突き倒す 他者にかみつく
 母親の髪の毛を引っ張る 親を攻撃する 唾をかける 他者をつねる ひっかく
 窓やドアのガラスを割る 照明器具を狙って壊す 家具を壊す
 人前でマスタベーションする 人の足に触る 抱きつく 顔を覗き込む
 店の商品を無断でとる 他人の家に上がり込む お金を無断で取る
 スリッパをトイレにほうりこむ パンツをトイレに流す トイレに物をつめる
- ⑫ 睡眠障害 多動、パニック 情緒不安定 イライラ 反抗 混乱 興奮
 電話のベルに不穏になる かんしゃく
- ⑬ うつろな表情で反応しない 目をそらす 何かさせようとするときあくびを連発する
 力を抜き何もしようとしない されるままにしている 寝た振りをする 寝てしまう
 指示を無視する
- ⑭ 特定の衣服や色に凝る 気に入った服しか着ない 半ズボンを拒否する
 特定の物への恐怖や拒否が強い
 固執行動 儀式行動 食卓につくと食事前に放屁する
 テレビをつけていないと落ち着かない 自分の好きな番組しか出さない
 次々と同じものを買わないとおさまらない 一日に何度も風呂に入る
- ⑮ チック てんかん

- (1) 問題行動には、子供の様々な思い（要求 興味 拒否 催促 相手をしてほしい 怒り 反抗 助けてほしい 苦痛 我慢 混乱など）が表現されている。
- (2) 問題行動の多くは、子育ての不適切さから増強されている。子どもと母親の二人の行動や言葉かけも記録し、なぜそうなったか検討し、対応の仕方を改善する。
- (3) 体罰は強烈であるが、何故叩かれるのか理解できない。恐怖からは、心は豊かに育たない。やがて、子供の方が親より強くなった時、暴力を振るう危険性がある。

(4) 留意 工夫

- ① 規則正しい生活をする。存分に山歩きをさせる。(睡眠障害、多動、大声)
- ② 街 乗り物・場所、集団、などに慣れさせる。(エチケット)
- ③ 見通しをもって、躰によって早期にとめる。(危険、反社会的)
- ④ 予めスケジュールを教え、見通せるようにする(安心 ゆとり 自主性 覚悟)
- ⑤ 構造化をはかり、コミュニケーション法の指導・工夫をする。
- ⑥ 自傷行為をやめさせようと躍起になって反応しない。頭叩きには「手はひざ」。
- ⑦ 薬物の使用。(チック、多動、てんかん、行動障害に対して)

9 トモニ療育センターを巣立った人たち

- ◆ 石村 嘉成 さん 石村嘉成 オフィシャルサイト (i-yoshinari.jp)

- ◆ 山本 萌恵子 パラリンピック陸上選手（リオ、東京、パリとパラリンピック3大会連続出場）

- ◆ 山本萌恵子選手（陸上女子・1500メートル） | 岡崎市ホームページ (okazaki.lg.jp)

- ◆ 渡部 翔太 さん

実践報告集 とともに16号に掲載

「自閉症の息子が自立して生きる道」KADOKAWA 著者：渡部房子
監修：河島淳子
YouTube翔ちゃんねる-Fucoママ（渡部房子）

10 おわりに

「自閉症児をどうとらえるか」によって、そして「どんな大人に育ててほしいか」によって、様々な育てられ方がなされてきた。

しかし、すでに大きな歪みや強度行動障害をしまっている自閉症者も、適切な取り組みによって発達し、歪みを取り除くことは確かに可能であるので、諦めるべきではない。テーマや課題を決めてじっくり歯車を合わせて付き合いたい。

利口そうな容貌や様子からは想像できない認知機能の障害の重大さに気づき、私が育てなければ生きていけないと実感をもって理解し、ひとりの人間として、できる限りの適切だと思う子育てを諦めないで丁寧に遂行してきた。

自閉症児の育児と養育は困難である。大泣きして暴れ、決して指示に従おうとせず、何度言い聞かせても舐けもできない。母がリードして育てることができない。無理すれば虐待と疑われる状態が出現する。

こんな状態でも、トモニ療育センターの河島教材を活用すれば 課題学習に乗せて学ばせることができる。河島教材は 母と子の架け橋、先生と生徒の架け橋となって、子どもを導き、教育の可能性が広がる。

こんな状態でも、突破するために、情報を集め、工夫し、「念ずれば花開く」の思いで取り組んできた。

自閉症児は育ちにくい。けれども、適切なやり方で行き届いて働きかければ、発達は加速されて、その子なりに人間らしく豊かに育っていく。

自閉症児は朝顔のようである。方向を定めてやらないと、その蔓（つる）は、思うままに元気いっぱい曲がりくねって伸びていく。一度曲がったものをのばすのは苦労である。好ましく伸ばすために、早期から行き届いて適切に関わっていかなければならない。

適切な一貫性ある継続的な個別指導を、長期にわたって取り組むことにより、課題の上達だけでなく、好ましい対人関係や社会性の発達・成長をも促すことができる。自閉症児はもっとも質の高い教育を必要としている子どもたちである。

発達は加速されて、その子なりに人間らしく豊かに育っていく。子どもの時代はすぐ終わってしまう。子どもの身体が大きさが、親を追い越さない内に、できるだけ育てておき、思春期以後、密着を避けるべきである。

自閉症児はどの子も可能性を秘めており、非常に魅力のある純粋な愛すべき子どもである。人間の素晴らしさ、生きることの意味を教えてくれるかけがえのない子どもである。繊細な優しさやきらめきを持つ彼らが、より豊かに自由に幸せに、共に生きていけるように、正しい障害の理解の普及と、行き届いた援助を願っている。

発語のない知的障害のある自閉症の子にも、河島教材を活用し、早期から、文字と数字、タイル算指導をぜひ取り組んでいただきたい。

現在は、母親も職場で働く。自閉症児の母親も働いている。保育園や学校の育児や教育の場に河島教材を取り入れて、試みていただきたい。自閉症の子どもを救う教育の働きに力を入れていただきたい。

無知は罪！

知識ある愛、行き届かせて！以上

◆河島淳子 プロフィール

1941 年	岡山県笠岡市生まれ
1966 年	岡山大学医学部卒 小児科医師 高知県立中央病院小児科勤務
1971 年	第三子誕生 自閉症のため、家庭療育に専念
1979 年	肢体不自由児施設『広島県立 福山 若草園』に非常勤小児科医師として勤務
1983 年	自閉症児の母親達と共に「わかば会」結成
1987 年	わかば共同福祉作業所の顧問として療育指導に携わる
1994 年	トモニ療育センター 所長 自閉症スペクトラム児とその家族の支援を目的としてトモニ療育センターを開設
1997 年	社会福祉法人 わかば会 理事長
1998 年 8 月	わかば共同作業所を開所
2004 年	社会福祉法人わかば会 理事
2001 年 6 月	第 43 回 日本小児神経学会総会 教育講演「自閉症児を育てる」
2003 年～2005 年	国立特別支援教育総合研究所の「自閉症教育のプロジェクト研究」に参画
2006 年～2008 年	「特別支援学校における自閉症の特性に応じた指導パッケージ開発研究」に参画
2007 年	社団法人 日本自閉症協会 理事
2016 年	社団法人 日本自閉症協会 顧問

※ 「精神科医の子育て論」服部祥子著（新潮選書）で、その家庭療育が詳しく紹介されている。

◆高橋知恵子 プロフィール

1948 年	大阪市生まれ
1972 年	大阪市立大学 家政学部 児童心理学科卒業
1972 年～75 年	医療法人恒昭会 藍野病院 精神神経科 ケースワーカーとして勤務
1975 年～78 年	名古屋大学医学部精神医学教室 研究生（臨床心理）
1994 年 6 月	トモニ療育センター開設時より、所長 河島淳子と共に副所長として発達障害児の母親教育の指導をしている。